



# 校種・教科別ICT活用事例一覧表（中学校・音楽）

（中学校学習指導要領（H29告示）解説音楽編を基に作成）

|                  |   | 1年  | 2年  | 3年 |
|------------------|---|---|---|----|
| A<br>表現          | p45 イ（イ）<br>楽器の音色や響きと奏法との関わり<br><b>思考を深める学習</b>   | p75 イ（イ）<br>楽器の音色や響きと奏法との関わり  | 演奏できるアプリケーションソフトなどを活用し、その楽器の音でしか表せない表現を疑似体験する。  |    |
|                  | p47 ウ（イ）<br>創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の音などを聴きながら他者と合わせて演奏する技能<br><b>個に応じた学習</b>   | p76 ウ（イ）<br>創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の音などを聴きながら他者と合わせて演奏する技能   | 自分の歌声を録画して振り返ったり、範唱の動画と比較したりすることで客観的に自分の課題を見付ける。<br>他人や他グループの録画した歌声を再生しながら歌の練習を行う。  |    |
|                  | p49 ア<br>創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、創作表現を創意工夫すること。<br><b>意見整理</b>   | p76 ウ（イ）<br>創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の音などを聴きながら他者と合わせて演奏する技能   | 音や音楽から喚起された新たなイメージや感情などを入力し、分類して整理する。   |    |
|                  | p53 ウ<br>創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付けること。<br><b>思考を深める学習</b> <b>表現・制作</b> <b>発表や話し合い</b>   | p82 ウ<br>創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付けること。  | 演奏できるアプリケーションソフトなどを活用し、課題や条件に沿った音を選択し、組合せて旋律や音楽をつくり発表する。発表後に感想を入力してもらい、自分の作品を振り返る。  |    |
| B<br>鑑賞          | p60 ア（ウ）<br>音楽表現の共通性や固有性<br><b>調査活動</b>   | p87 ア（ウ）<br>音楽表現の共通性や固有性  | インターネットなどを活用して、複数の音楽を聴いたりオペラやミュージカルを聴いたりして、それぞれの表現上の特徴に気づき、共通性や固有性を考える。   |    |
|                  | p62 イ（ウ）<br>我が国や郷土の伝統音楽及びアジア地域の諸民族の音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性<br><b>調査活動</b> <b>意見整理</b>                                 | p89 イ（ウ）<br>我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性   | 我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽を聴いてそれぞれの特徴を比較し、共通点や相違点、あるいはその音楽だけに見られる固有性などを調べて気付いたことを入力し、分類してまとめる。  |    |
| 指導上の取扱いと<br>配慮事項 | p102 エ<br>生徒が様々な感覚を関連付けて音楽への理解を深めたり、主体的に学習に取り組んだりすることができるようにするため、コンピュータや教育機器を効果的に活用できるよう指導を工夫すること。<br><b>思考を深める学習</b> | 演奏できるアプリケーションソフトなどを活用し、音量の変化に応じて図形の大きさや振動の強さが変わったり、楽器の音色の変化によって色が変わったりするなどのように、聴覚と視覚、聴覚と触覚など、複数の感覚を関連付けて音楽を捉える。<br><b>個に応じた学習</b><br>創作の学習において、演奏できるアプリケーションソフトなどを活用し、演奏や記譜に関する部分を作成する。<br><b>学校の壁を越えた学習</b><br>遠隔授業を行い、他国や他校の生徒と同時に一つの歌を共に歌ったり、自分の地域の音楽を紹介し合ったりしながら、音楽表現の共通性や固有性を理解する。 |   |    |
|                  | 障害のある生徒への配慮に  | p96<br>音楽を形づくっている要素（音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成など）を知覚することが難しい場合は、要素に着目しやすくできるように、音楽に合わせて一緒に拍を打ったり体を動かしたりするなどして、要素の表れ方を視覚化、動作化するなどの配慮をする。なお、動作化する際は、決められた動きのパターンを習得するような活動にならないよう留意する。<br><b>個に応じた学習</b><br>シミュレーションソフトを活用し、リズム、速度、旋律、強弱、反復等の要素を視覚化し、着目できるようにする。                         | p96<br>音楽を聴くことによって自分の内面に生まれる様々なイメージや感情を言語化することが難しい場合は、表現したい言葉を思い出すきっかけとなるよう、イメージや感情を表す形容詞などのキーワードを示し、選択できるようにするなどの配慮をする。<br><b>個に応じた学習</b><br>プレゼンテーションソフトなどを活用して、キーワードを選択しやすくする。 |    |